

2011年2月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

月平均500 hPa 高度場を見ると、北極振動は正の位相となり、高緯度域は負偏差、中緯度域は正偏差が広く分布した。ユーラシア東部から北太平洋にかけては正偏差が広がり、特にアリューシャン付近で明瞭だった。バレンツ海付近は正偏差、北大西洋北部やカスピ海付近は負偏差となった。シベリア高気圧は平年に比べて弱く、また、アリューシャン低気圧は不明瞭だった。このため、日本付近では冬型の気圧配置は弱かった。ユーラシア東部から北太平洋にかけてのジェット気流は分流傾向だった。

熱帯の対流活動は、オーストラリアの北西、フィリピン付近では平年より活発、中部太平洋赤道域では不活発だった。また、スリランカ付近、南米北部、アフリカでは平年より活発だった。赤道季節内振動(MJO)に伴う対流活発な位相は、不明瞭だった。南方振動指数(SOI)は+1.9で大きな値(貿易風が平年よりかなり強い)となった。対流圏下層は、西部～中部太平洋赤道域で東風偏差、インド洋赤道域では西風偏差だった。対流圏上層は、太平洋中部で低気圧

性循環偏差が明瞭だったが、その他の領域では高気圧性循環偏差が広がった。

世界の天候

2011年2月の世界の月平均気温平年差は+0.13°Cであった。2月の世界の平均気温は、上昇傾向が続いており、長期的な上昇率は約0.77°C/100年である。主な異常天候発生地域は次のとおり。

○カザフスタン南部～パキスタンでは、低気圧の影響を受け、異常多雨(雪)となった。

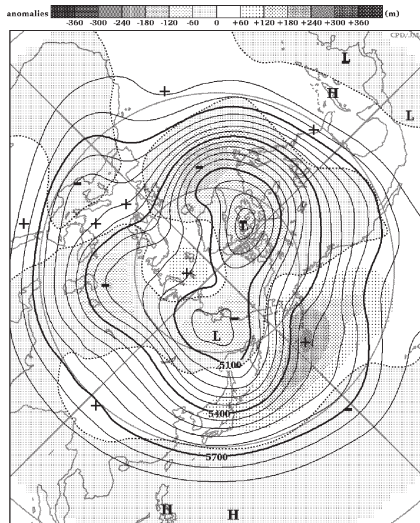
○南米北部では、対流活動が平年よりも活発で、異常多雨となった。

○オーストラリア西部～南部では、サイクロン、低気圧、前線の影響で、異常多雨となった。

(気象庁 地球環境・海洋部 気候情報課)

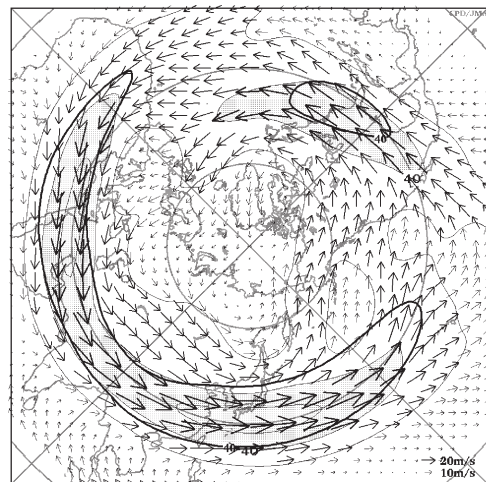
※ より詳細な情報については、気象庁ホームページ「気候系監視速報」をご覧ください。

<http://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/diag/sokuho/index.html>



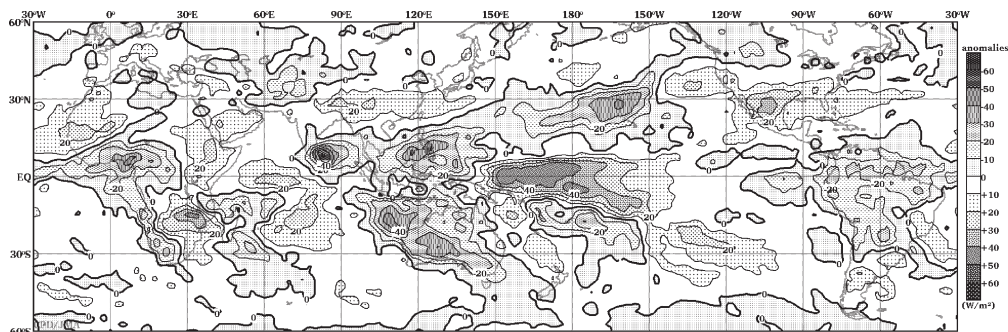
2011年2月の北半球月平均500 hPa 高度および平年偏差

等値線間隔は60 m。陰影は平年偏差。平年値は1979～2004年のデータから作成。

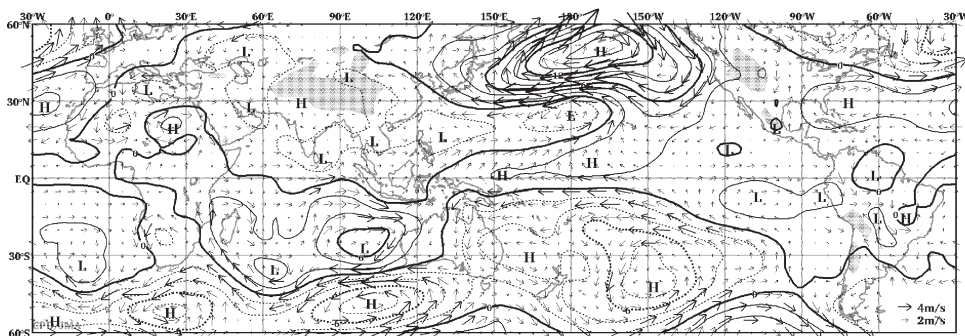


2011年2月の北半球月平均200 hPa 風速および風ベクトル

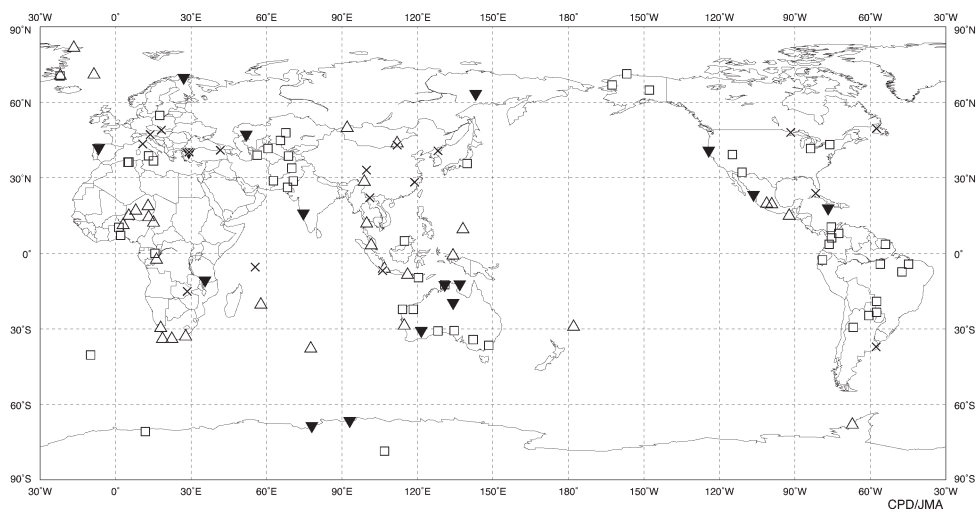
等値線間隔は20 m/s。陰影部は40 m/s以上。太実線で囲まれた領域は平年の40 m/s以上の領域を示す。平年値は1979～2004年のデータから作成。



2011年2月の月平均外向き長波放射量年偏差
 等値線間隔は10 W/m²で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。元データは NOAA. 年偏差は1979~2004年のデータから作成.



2011年2月の月平均850 hPa 流線関数年偏差および風年偏差ベクトル
 流線関数の偏差の等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$. 年偏差は1979~2004年のデータから作成.



2011年2月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
 異常高温・低温は標準偏差の1.83倍以上, 異常多雨・少雨は降水5分位値が6および0.